

神社のしめ縄は神の領域と現世を分け隔てる「境界」として、なわばりを指示します。しめ縄の由来は、古事記に書かれた天照大神の神話だと言い伝えられ、その昔、岩戸にこもつた天照大神を神々が連れ出した際に「もう岩戸に入らないよう」にと岩戸にしめ縄をつけたことに由来すると伝えられます。

自宅の正月飾りであるしめ縄ゴボウ縄めは年神様を受け入れる支度として飾るものであるため、年末の内にご用意するのが作法です。

輪飾りなど様々な形のものが伝えられ、一般に二十八日頃に飾り始めるのが慣例。

正月飾りを片付けるのは、年神様が戻る日である『松の内が終わつた直後』だといわれています。松の内は

辰年 出雲大社と龍神様

出雲大社には龍神様がいらっしゃいます。旧暦十月は一般に「神無月」ですが、

出雲地方では全国の八百万（やおよろず）の神がお集まりになることから「神在月（かみありづき）」と

呼ばれます。神々は旧暦十一月十一日（令和六年十一月二十四日）から十七日まで

の七日間は出雲大社へ集われ、大国主大神の御許において神々による縁結びのお話し合いがなされます。

この折、神々の先導役をお仕えされる御使神として、古くより「龍蛇神」（りゆうじやしん）の信仰があります。

「龍蛇神」は海蛇の神様で、水に住む「龍」の信仰からは火

じやしん）の信仰があります。

日本海に生息する「セ

グロウミ」（尻尾の文様が御神紋に似て）

いることからお仕え

神様と崇拝される。

日本海に生息する「セ

グロウミ」（尻尾の文様が御神紋に似て）

いることから